

登州市のできごと  
おしらせします！

# TOPICS

## 愛する学び舎

### ありがとう

上沼2校、閉校式を開催



全児童で愛着のある学び舎へ別れの言葉を述べました



校長から教育長へ。教育長から町長へ。学校のシンボル、校旗が返納されました

少子化に伴い、教育環境整備のために閉校する明治6年開校の中田町上沼、桜場両小学校の閉校記念式典はそれぞれ3月19、20日、各体育館で開催されました。式には、両校とも児童や歴任教職員、地域住民など300人以上が出席しました。出席者の中には、132年の歴史ある学校との別れを惜しみ、涙を流す人も。三浦五郎中田町長は「子どもたちの教育環境のために、閉校の道を選んだ地域の皆さんに敬意を表します」と式辞を述べました。

長谷信一桜場小学校長は「子

どもたちのために、協力を惜しまない素晴らしい地域を誇りに思います」。菅原靖上沼小学校長は「米国から贈られた青い目の人形を、子どもたちのためにと戦火の中、命がけで守ってくれた、愛情にあふれた地域です」と、ともに学校を支えてきた地域へ感謝しました。

最後に、両校とも出席者全員で校歌を斉唱し、長い歴史に幕を下ろしました。

両校の児童は、新年度から現在の上沼中央小に開校する新生「登米市上沼小」に通います。

## 光り輝く登米市に向けて

合併9町で閉町式を開催

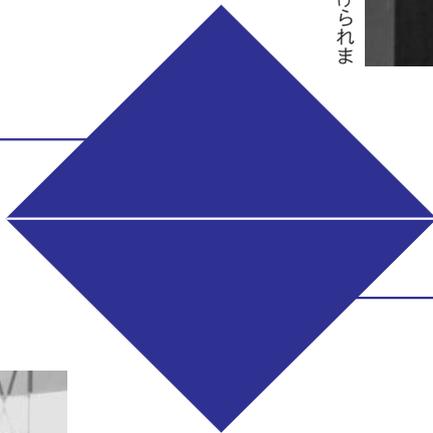


町長、町議会議長が町旗を降納しました

4月1日の「登米市」設置に向け、登米地域9町は3月13から27日にかけて、閉町式を各町で開催しました。式では、これまで町に功績のあった方たちへ表彰状および感謝状を贈呈。また、小学生からは、旧町に対する思いや登米市へのメッセージを読み上げられました。町長、町議会議長が町旗を降納すると、会場からは町への感謝の気持ちを込めて、大きな拍手が送られました。最後は、来場者全員の万歳三唱で、半世紀に渡る町の歴史に幕が降ろされました。



それぞれの思いや期待が読み上げられました



## もっこりの里がオープン

道の駅みなみかた開所式



オープン初日の3月19日、大勢の来場者でにぎわいました

南方町が新高石浦地内に建設を進めていた産地形成促進施設・道の駅みなみかた（愛称「もっこりの里」）の開所式は3月19日、関係者ら約80人が集まり催されました。施設は、大型自動車8台と普通車70台分の駐車場、農産物直売所や農村レストランが完備されています。21日までのオープニングセール期間中は、コンサートや歌謡ショー、みなみかた産もっこり和牛の無料試食などが催されました。期間中はあいにくの寒さにもかかわらず、1万5千以上の人が訪れ、にぎわいました。



市役所南方庁舎の東側にオープンした「道の駅みなみかた」